



馬 耳 東 風

移動革命といわれ、人や物、情報、通貨が国境を越えて行き交う時代、さまざまな問題も当然ながらグローバル化する。感染症、偽装食肉、大気汚染、温暖化、金融危機など次々と新しい脅威に備えねばならなくなった。今年の初めに、羽田空港国際線の動物検疫所を見学させていただいた。迫り来る感染症の脅威に対して、基本4法の家畜伝染病予防法、狂犬病予防法、感染症法、水産資源保護法を軸に水際検疫の責任の重さは計り知れない。制服制帽に身を固める現場の緊張感が伝わってくる。全国では370余人の家畜防疫官が30カ所の動物検疫所に配属され、法令で指定された空海港97カ所を守る。羽田空港も検疫場の運用が始まり、家畜、犬等の係留施設は13カ所になった。国際化の広がりや外国人に分かりやすいように、国際経験豊かな桶谷良至支所長は、OIEや日本獣医師会等の記章を付け、品格と友好の態勢で臨まれていた。昨年、肉製品や果物を探知するアメリカで訓練されたビーグル検疫探知犬「ニール」と「バックキー」が大活躍している。公募で誕生したイメージキャラクター「クンくん」のぬいぐるみが、職員の楽しい演出で人気を博し、手作りのマスコット犬が出迎えるカウンターは、友好的で明るい雰囲気にも包まれている。また、キャラクター犬が出迎えるフロアの広報ブースは、良く工夫されて楽しく学べるコーナーである。連休時の空港利用者は多く、近隣国での口蹄疫や鳥インフルエンザの発生もあり、「伝染病お断り」として「頼れ

る鼻」の「検疫探知犬」の活躍がメディアに動画付きで報道され、関心の高さを物語っている。探知犬は今年の福岡、中部空港の増頭で10頭になったという。「多くの方に声をかけられると集中力を欠くので、見かけても手を触れず、遠くから見守って欲しい」と呼びかけている。摘発件数も多く、感染症侵入の危機に際し大いに活躍が期待されている。

今やキャラクターは大流行である。身近に置いて可愛がる小動物や人形が多いが、イベントには付き物のように入場する。テレビでよくお目にかかるのが、NHKの「どーもくん」だ。言葉はしゃべれないのに元NHKアナウンサーの真似をしているのだとか。古都奈良が生んだマスコットキャラクター「せんとくん」は、大仏様の頭に鹿の角が生え人気の的となり、多くの観光客を集めた。また、面白いのは東大五月祭に登場したヒツジのマスカラ「めいちゃん」だ。なんと女の子で紙とイチヨウの実が大好きで、ついに公式グッズで手のひらサイズのぬいぐるみが誕生した。追いかけるようにあちこちの大学でマスコットが生まれてきた。各地の行政機関もキャラクター作りに励んでいる。国体のキャラクターを県のマスコットに据えた埼玉県は、「コバトン」が大活躍でデザインも数百種を超えた。さらに、県の愛称「彩の国」がキャンペーンマークに選定され、一層の普及につながった。ポスターだとキャンペーンガールが微笑みかけるが、「ゆるキャラ」は親しみや愛着を高め、宣伝効果が大きいと、工夫されながら出現し人気を集めるこの頃である。 (柏)